

## 東カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ（国）、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2021年1月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

### 1. 概況

- セントルシア及びセントビンセントで新型コロナウイルス感染者が増加中。グレナダでは夜間外出禁止を実施。
- アンティグア及びセントビンセントで21年度予算案が議会に提出された。
- ミッチェル・グレナダ首相は、健康上の問題がない限り23年予定の次期総選挙に出馬すると発表。
- 習近平中国国家主席とスケリット・ドミニカ首相の電話会談が行われ、中国は新型コロナウイルス用ワクチンの入手を支援すると発言。
- 昨年末に火山活動が活発化したセントビンセントのラ・スフリエール火山は活動を続けているものの、警戒レベルはオレンジで変更なし。

### 2. 内政

#### （1）新型コロナウイルス

- 3日付グレナダ紙は、同国で初のコロナ感染による死者が発生したと報道。
- 4日付セントルシア紙は、学校は4日再開され、生徒登校による授業は11日から再開されると報道。
- 4日、セントビンセントは、全ての渡航者はPCR検査陰性証明書が必要、到着時にPCR検査（鼻咽頭スワブ法）を実施する等の入国規制措置更新を発動。
- 4日付グレナダ紙は、夜8時から朝5時までの夜間外出禁止措置は1週間延長されるが、レストラン内での飲食は再開されたと報道。11日付同国紙は、夜間外出禁止は夜10時からに変更して継続と報道。26日付同国紙は、夜間外出禁止が更に2週間延長されたと報道。
- 6日付セントキッツ紙は、政府は英国での変異種の発生に伴い、英国航空のロンドン便を16日まで一時停止すると発表したと報道。
- 6日付セントビンセント紙は、プリンス保健大臣他同省幹部は、同省員の親類の感染が確認されたため、念のために5日間の自主検疫を実施すると報道。
- 8日付セントキッツ紙は、ローズ主任医務官はワクチン接種者も検疫は必要となると述べた、台湾は同国のワクチン購入のために60万米ドルの支援を約束したと報道。
- 8日付セントビンセント紙は、7日に55人の新規感染が確認されたことから、集会人数制限強化（屋内10人、屋外20人）、バスの乗車率制限等が発動

されたと報道。

● 8日、OEC Sは、ブラジル支援によりセントビンセントに千個のPCR検査キットが寄贈されたと発表。

● 14日付セントビンセント紙は、エアカナダは23日からセントビンセント便を無期限で運休すると発表したと報道。

● 15日付セントビンセント紙は、台湾は14,700個のPCR検査キットを寄贈したと報道。同日付紙は、同国で初のコロナ感染による死者が発生したと報道。

● 16日付アンティグア紙は、保健大臣を長として、ワクチン接種実施の企画調整等を行う国内調整委員会が発足したと報道。

● 18日、グレナダ政府は、全ての渡航者は、渡航許可証明書の提示が必要で、5歳以上の渡航者は、渡航3日前以内に実施されたPCR検査陰性証明書が必要等と規則改正を発動。

● 19日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相は、非常事態宣言や外出禁止等は行わないが、22日及び25日を休日とすると発表したと報道。

● 20日付セントルシア紙は、米疾病予防管理センター（CDC）は、セントルシアをレベル4に引き上げ、渡航中止を勧告したと報道。

● 25日付セントルシア紙は、同国で5件の英国変異種感染が確認されたと報道。

● 27日付ドミニカ紙は、25日のドミニカ中国首脳電話会談に関し、ドミニカはインドにワクチン支援要請を行っているが返答がない、今回の首脳会談で習主席からワクチン支援の申し出があったと報道。

● 31日、セントルシアで216人の新規感染が確認され、総感染者は1,411人、セントビンセントでは50人の新規感染、総感染者は951人となった。

## （2）その他内政

● 昨年末に火山活動が活発化したセントビンセントのラ・スフリエール火山は、監視活動が続けられており、ドームは拡大を続け、硫黄臭、二酸化炭素の発生等は見られるが、1月末時点で警戒レベルのオレンジに変更はなく、待避命令、勧告は出されていないが、クレーター内への立ち入りは非常に危険な状況が継続。

● 8日付アンティグア紙は、バーブーダ島政府は中央政府からの補助金未払いにつき法廷に提訴することを検討中と報道。

● 8日付グレナダ紙は、ミッチェル首相は、健康上の問題がない限り23年予定の次期総選挙に出馬すると述べたと報道。

● 13日付セントルシア紙は、漁業省は沿岸でサメの出現が見られ、注意喚起を行ったと報道。

● 14日付セントキッツ紙は、同国での20年の重大犯罪件数は前年比で20%減少し、ここ数年減少傾向にあると報道。

### 3. 経済

- 6日、ドミニカ政府情報局は、農業省は世銀支援プログラムを活用して、108基の漁船用船外機を購入し、昨年12月に引き渡し式が行われたと報道。
- 8日付ドミニカ紙は、アンティグア政府は、L I A T航空の運航継続のために毎月5千万東カリブドルを負担していると報告したと報道。
- 7日付セントルシア紙は、持続可能な開発及び農業省は、同島南東部森林保全等の生態系維持のため、地球環境ファシリティ（G E F）との協力覚書を署名したと報道。
- 14日付ドミニカ紙は、ドミニカ中国友好病院建設の第3段階の引き渡しは、中国大使館と保健省の間で実施されたと報道。
- 17日付セントルシア紙は、世銀は同国のコロナ禍対策、復興、強靱性強化のために3千万米ドルの支援を承認したと報道。
- 19日付カリコム紙は、西インド諸島大学アンティグア校に海洋学・ブルーエコノミー研究所を設立する覚書がブラウン首相と同大学学長の間で署名されたと報道。
- 27日付グレナダ紙は、アントワン東カリブ中央銀行総裁は、同行通貨評議会が再任が承認され、2月から新たに5年間総裁を務めると報道。
- 28日付セントビンセント紙は、27日ゴンザルベス財務大臣は総額12.1億東カリブドルの21年度予算案を議会に提出し、同予算は20年度比で2.2%増、税収は5.4%減少見込みと述べた、更にコロナ禍の影響で企業倒産は420社、失業者は2,754人と報告したと報道。
- 29日付アンティグア紙は、28日ブラウン首相は総額14億東カリブドルの21年度予算案を議会に提出し、緊縮財政措置も取らず、新税も導入しない、21年度の成長率は3%と予測されると述べたと報道。
- 30日付ドミニカ紙は、同国にセントニコラス大学獣医学部が開設され、これはカリブ地域で初の獣医学校となると報道。

### 4. 外交

- 20日、ブラウン・アンティグア首相は、小島嶼国連合議長国として、米国が気候変動パリ協定復帰を歓迎する書簡をバイデン新米大統領に発出。21日、O E C Sは、米国が気候変動パリ協定に復帰することを決めたことを歓迎する声明を発出。その他、各国首脳もバイデン大統領就任の祝辞を発出。
- 21日付セントキッツ紙は、国連人権理事会における第37回普遍的・定期的レビューで同国の審査が行われ、バス外務次官が同国の人権状況を報告したと報道。
- 27日付ドミニカ紙は、25日スケリット首相と習近平中国国家主席の電話

会談が行われ、習主席は、中国は全ての国で新型コロナ用ワクチンの入手に向け貢献する、両国は外交関係樹立以降、核心的事項で相互に支持し、友好関係を強化してきた、今後も可能な限りの支援を継続すると述べ、スケリット首相は、ドミニカは、1つの中国を堅持し、中国の平和裏の統一を支持し、中国内政への他国の干渉に強く反対し、香港及び台湾問題では中国を断固として支持すると述べたと報道。

●29日、ドミニカ地方公共団体協会との間で、災害時避難所及び排水溝改修を行う草の根・人間の安全保障無償資金協力（15万米ドル弱）のオンライン署名式が行われ、同協会は支援に深く感謝すると述べた。

●29日、OECSは、27日ジャスネ・セントルシア首相はダボス会合（オンラインに出席し、小島嶼国から大海洋国家に向けての新たな未来と題目で公演したと発表。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。